

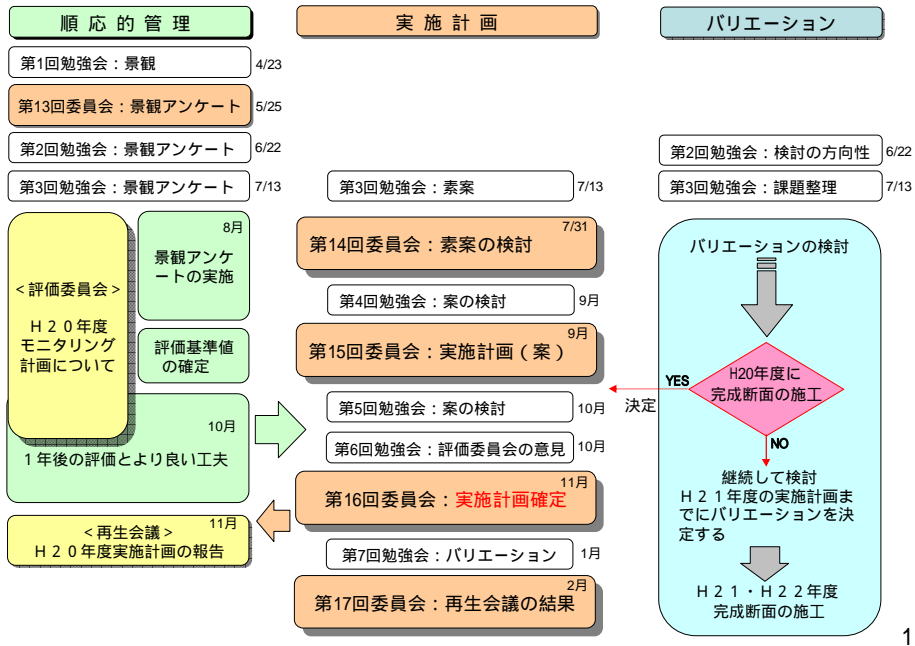
目 次 頁

1. H20年度実施計画(素案)	
(1) H20年度実施計画の検討スケジュール	1
(2) H20年度の工事の考え方	2
(3) 工事の進捗状況(残工事の整理)	4
(4) H20年度工事(素案)	5
(5) H20年度モニタリング計画(案)	11
参考資料1. H20年度の試験施工について(平面・断面)	13



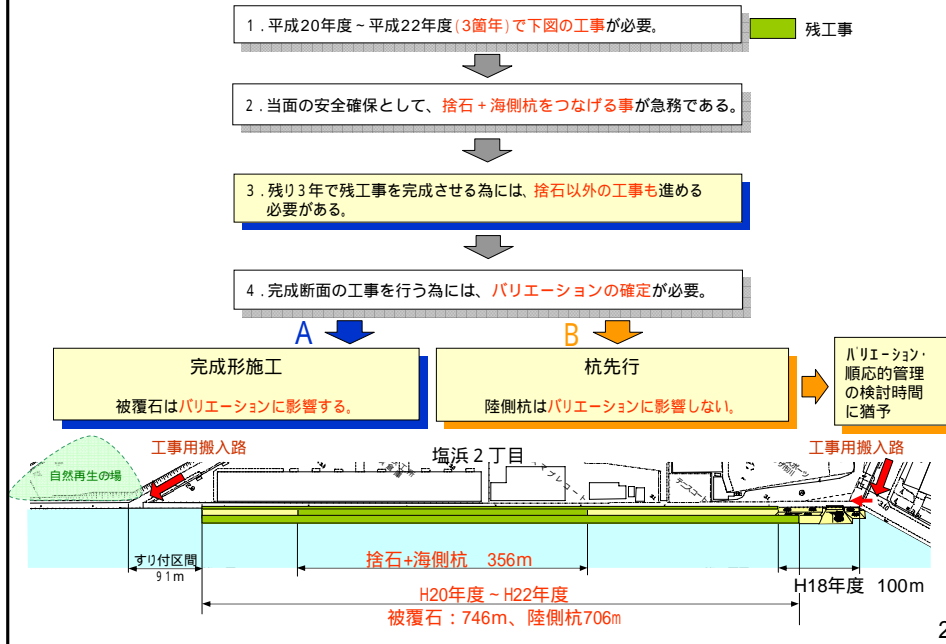
公開モニタリング調査の状況

(1) H20年度実施計画の検討スケジュール



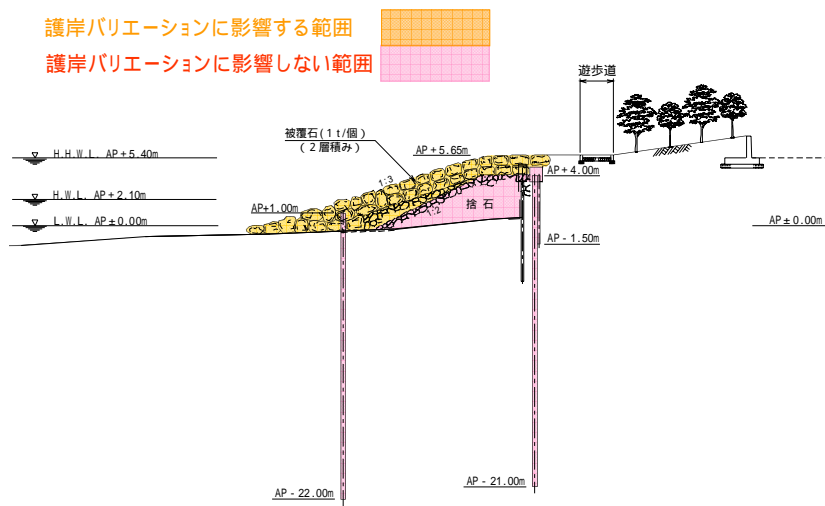
1

(2) H20年度の工事の考え方

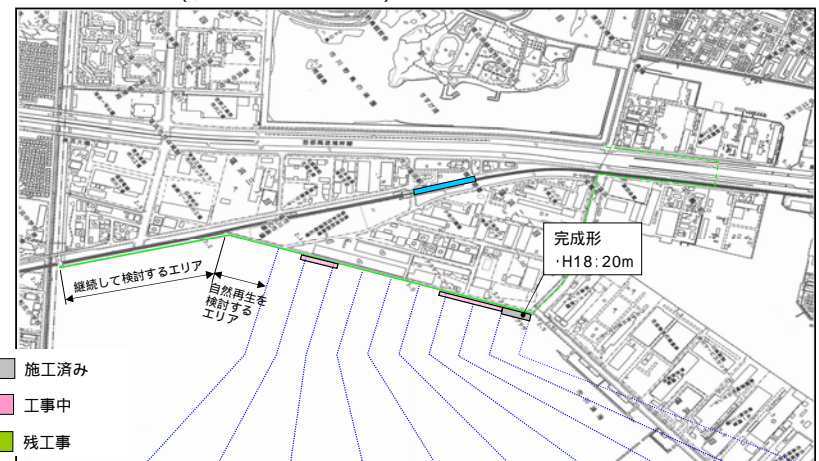


2

参考 護岸バリエーションに影響する範囲(断面)



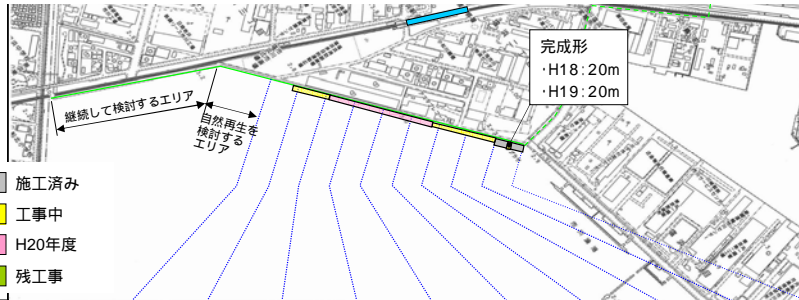
(3) 工事の進捗状況(残工事の整理)



工種・箇所区分									
海域工事	捨石 + H鋼杭 (倒壊防止)		120m					230m	100m
陸域工事	被覆石 (バリエーション)								20m 20m
陸域工事	H鋼杭 + 鋼矢板 (倒壊防止)								80m
陸域工事	被覆石 (バリエーション)								20m

(4) H20年度工事(素案)

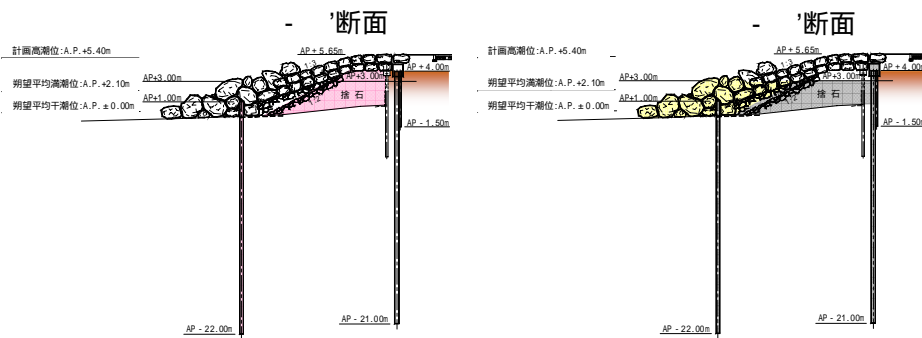
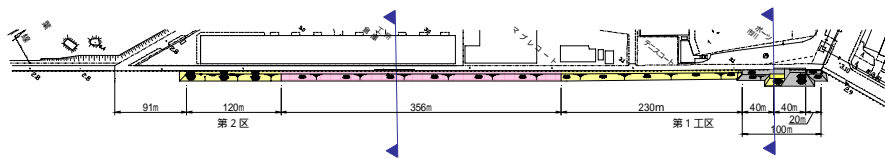
第1案：完成形なし案 (捨石、海側H鋼杭) + (陸側H鋼杭・鋼矢板)



工種・箇所区分							
海域工事	捨石 + H鋼杭 (倒壊防止)	120m	356m	230m	100m		
陸域工事	H鋼杭 + 鋼矢板 (倒壊防止)			370m	80m		
	被覆石 (バリエーション)				20m	20m	
	被覆石 (バリエーション)					20m	

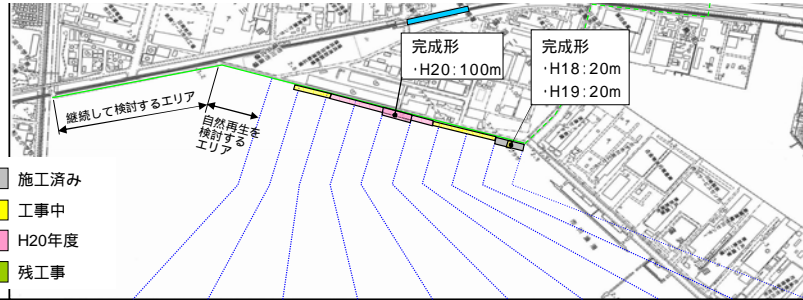
メリット	デメリット
対象範囲の緊急対応が完了する。 バリエーションに影響しない工事なので検討時間ができる。	新基本断面での完成形確認は20mに限られる。

第1案：完成形なし案 施工断面図



第2案：完成形100m案

(捨石、海側H鋼杭) + (中央部100m完成形) + (陸側H鋼杭・鋼矢板 260m)



工種・箇所区分									
海域工事	捨石 + H鋼杭 (倒壊防止)		120m		356m		230m		100m
	被覆石 (バリエーション)				100m				20m 20m
陸域工事	H鋼杭 + 鋼矢板 (倒壊防止)				260m				80m
	被覆石 (バリエーション)				100m				20m

メリット

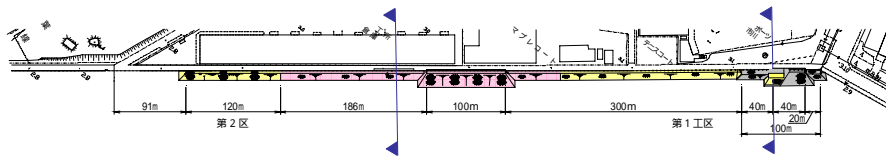
対象範囲の緊急対応が完了する。
比較的に広い範囲での新基本断面が確認できる。

デメリット

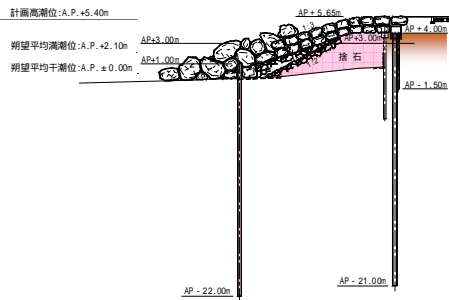
完成形とする範囲のバリエーション検討時間が短い。
完成形区間の底質に係わる判定基準値を早急に決める必要がある。
台船を使用した海上工事が必要となり、工事費が割高となる。

7

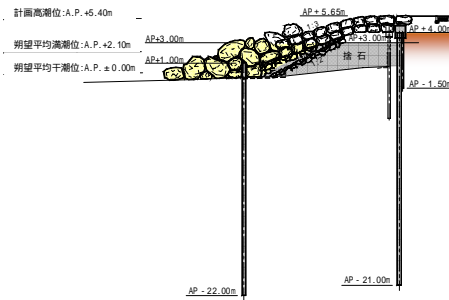
第2案：完成形100m案 施工断面図



- '断面



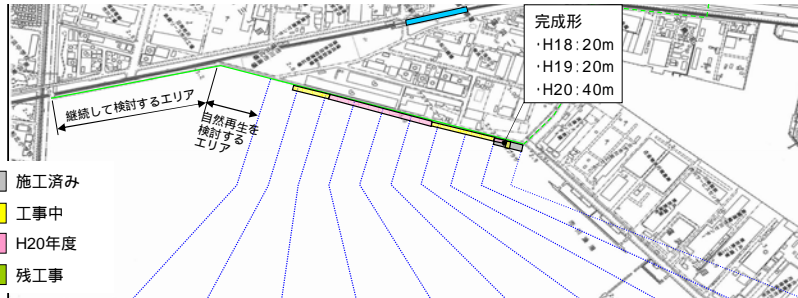
- '断面



8

第3案：完成形60m案

(捨石、海側H鋼杭) + (完成形60m) + (陸側H鋼杭・鋼矢板 300m)



工種・箇所区分							
海域工事	捨石 + H鋼杭 (倒壊防止)	120m	356m	230m	100m		
	被覆石 (バリエーション)					20m 40m	20m
陸域工事	H鋼杭 + 鋼矢板 (倒壊防止)			300m		80m	
	被覆石 (バリエーション)					60m	20m

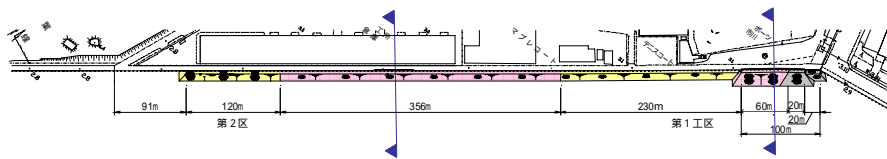
メリット

バリエーションに影響しない箇所の完成形であり、検討時間ができる。
対象範囲の緊急対応が完了する。
新・旧基本断面が隣り合うことになり、完成形の比較が容易。

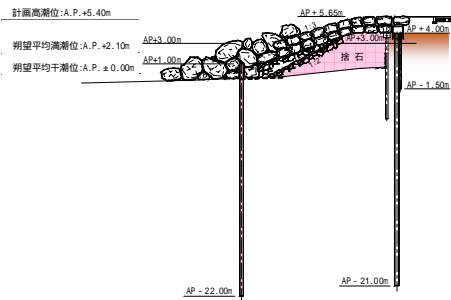
デメリット

新基本断面での完成形確認区間が短い。

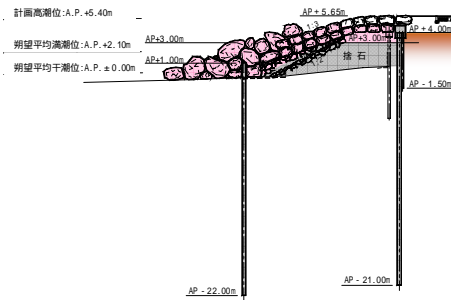
第3案：完成形60m案 施工断面図



- '断面



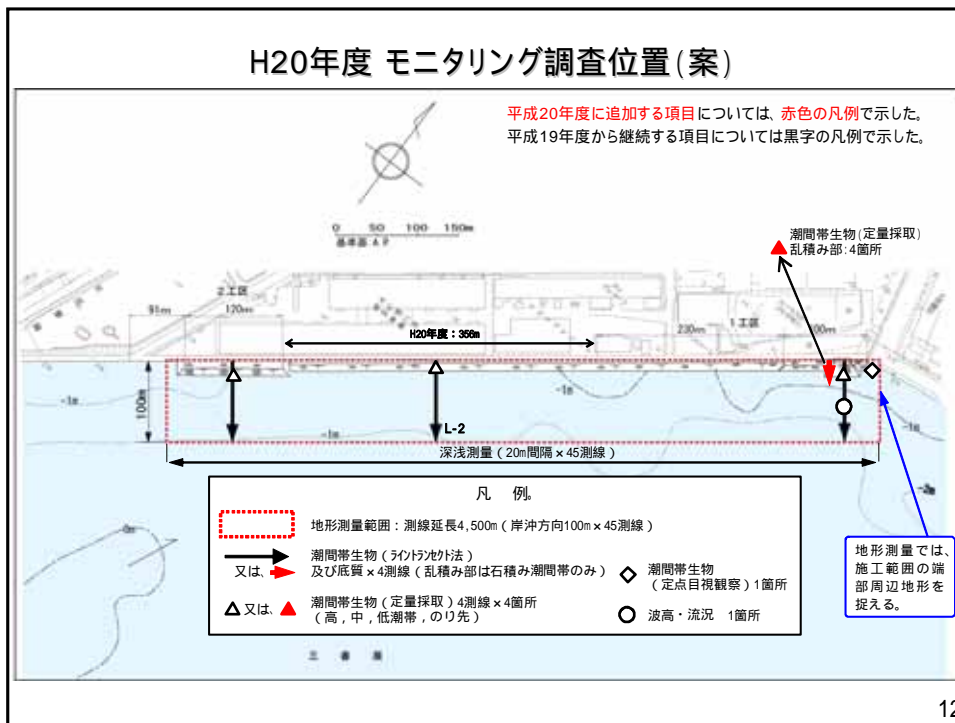
- '断面



(5) H20年度モニタリング計画(案)

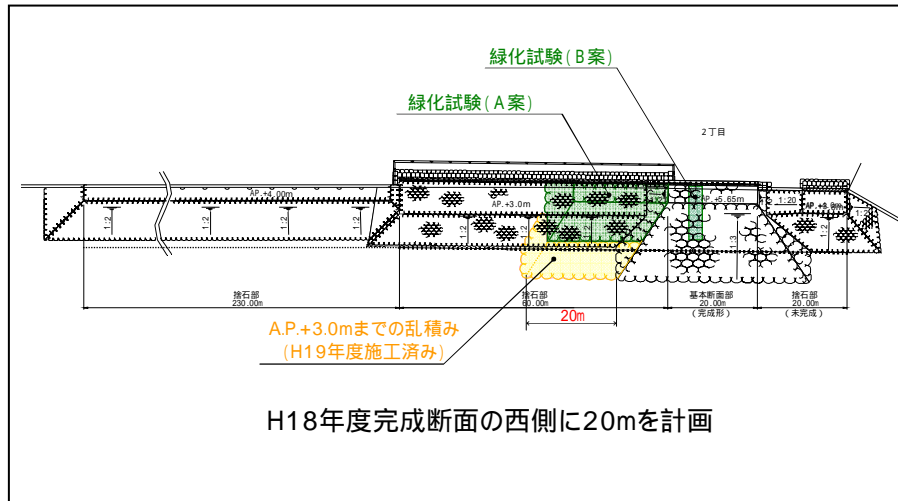
項目	平成19年度	平成20年度
地形	・施工延長に合わせて測量範囲を拡大。 ・石積護岸端部脇の地形測量については、回数を増やす。年4回+イベント(台風等の高波)後	現状通り
底質	3測線、10mピッチ採泥、粒度分析	現状通り (但し、検証基準は施工箇所毎に検討)
生物	・ライトランセット法: 1工区、2工区、対照測線L-2、塩浜1丁目緊急補修部の4測線 ・採取分析: 1測線/4箇所×1丁目緊急補修部を除く3測線	・乱積部の潮間帯に、ライトランセット法測線、及び定量採取4検体(高・中・低潮帯、のり先)を追加 ・1丁目緊急補修部は終了
波浪・流況	・最大60日間連続観測を年2回実施	・30日間連続観測を年2回実施
青潮	DO計によるDO計測。1工区の完成断面石積のり先。未施工区間の直立護岸前面	現状通り
緑化	-	・護岸検討委員会で植栽の位置、植栽種の選定等を検討 ・追跡調査 (植物種、生育密度、生育範囲等)
水鳥	-	自然環境調査結果等を用いて施工前後の比較を行う。

H20年度 モニタリング調査位置(案)

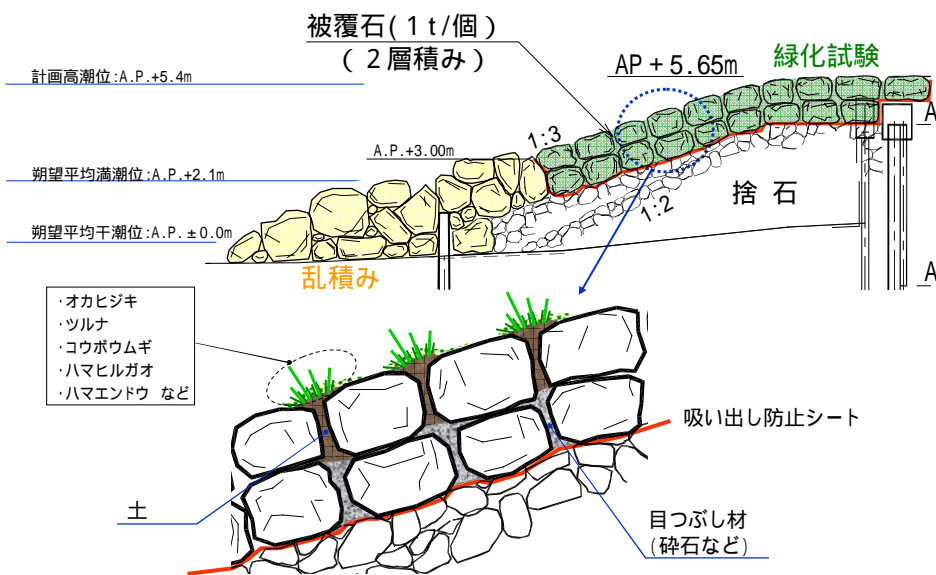


参考資料1 . H20年度の試験施工について(平面・断面)

計画平面図



被覆の緑化試験(A案) : 石の隙間の利用による暴露試験



被覆の緑化試験(B案) : 木枠、ポット苗の利用による暴露試験

